

## (9) 八束小学校

学 校 長 西川 弥佐  
校内研究代表者 松浦 愛

### 1. 研究主題 「よく聞き自ら学ぶ授業づくり」

#### 2. 主題設定の理由

本校は昨年度から、「授業と家庭学習のサイクル化」を中心にした授業づくりに取り組み始めた。児童の実態から課題をみつけ、課題から具体的な手立てを考えた学習活動、その結果から次の課題把握というように繋げ、どこでどの力をどう育てていくのかをその都度確かめながら、一年間の研修を進めてきた。八束小学学習スタンダードの作成、それに則った授業づくり、家庭学習の習慣化に取り組み、教職員の共通理解、保護者の協力など一定の成果は得られた。しかし、全学年統一した取り組みに弱さがあったり、友だちと意見を聞き合い学び合ったりすることに課題が見られた。学力向上につながる授業改善がさらに必要ということもあり、今年度も引き続き、全学年で統一した取り組みや予習を生かした授業づくりについて、研究を深めていきたいと考える。

研究授業は今年度も算数科を中心とした主体的に活動する児童の育成をめざした授業づくりの研究に取り組んでいく。全国学力学習状況調査の結果では、算数Bは全国平均をわずかに上回ったものの、算数Aは下回っている。基礎学力定着のため、授業改善・予習を生かした授業づくり、加力学習をさらに充実させていかななくてはならない。基礎基本の学力の定着をより確かなものにするために、教員の資質や指導力の向上を目的とした研修を行い、実践に生かしていきたい。

本校の児童は、素直で何事にも一生懸命取り組める児童が多い。しかし、問題文を読み、問われていることを読み取ったり、筋道立てて考えたりする力や自分の考えを絵、図、言葉や文章、式などを用いて自分の言葉で発表したり書いたりする力が弱く、言語活動の充実も必要である。

「よく聞き、自ら学ぶ授業づくり」をするために、算数科の授業の中で児童が主体的に活動できる場面を仕組んだ授業改善や予習を生かした授業づくり、算数科の学び方・学習の進め方、ノート作りなどにも力を入れて取り組んでいく。さらに、既習内容を使った自力解決だけに終わらず、友だちとかかわり合いながら学びを深め、理解度を確かめ定着させる適用問題、ふり返りを書く活動を授業の最後に取り入れるなど確かな学力の定着に向けた取り組みを全学年で統一して進めていく。

#### 3. 研究の進め方と方法

##### (1) 研究仮説

算数科の学習において、次のような手立てや指導の工夫を行うことにより、自分の思いや考えを表現し、学び合いながら確かな学力を身につけた児童の育成をすることができるだろう。

- ①児童が自ら思考したくなるような発問や学習内容の工夫をする。
- ②学習スタンダードに則った授業づくり、効果的な板書の工夫をする。
- ③目的意識と必然性を持たせた児童のかかわり合う場を設定する。
- ④予習を生かした授業実践に取り組む。

##### (2) 研究の重点内容

###### ◎授業研究

研究内容（算数科）

- ◎家庭学習・自主学習の推進
- ◎特別支援教育の推進
- ◎道徳教育・人権教育の推進
- ◎保小中の連携

#### 4. 今年度の取り組み

##### (1) 研究方法

###### ①基礎的・基本的な力を育てる授業づくり

###### ○授業研究

- ・八束小授業スタンダードに則った授業に取り組む。
- ・全学年が算数科の研究授業を行う。
- ・教材研究は低・中・高のブロックで取り組み、指導案検討・模擬授業や事後研は校内研の中で取り組む
- ・講師招聘による学習会を開く。
- ・授業づくり、発問・板書の工夫、ノート指導の充実の研究を深める。
- ・小中相互の授業参観をし合う。

###### ○授業評価表を計画的に活用した授業改善

- ・評価表の見直し・改善（学期に1回）をする。

###### ○実践交流を通して取り組みについての確認

- ・学期ごとに取り組みについての実践交流、成果と課題についてのまとめを行う。

###### ○必要に応じて全校研と部会研を効果的に組織



※全体研究日 第1・2・4水曜日（15：30～16：40）とする。

※全員が3部会の何らかに属して、全員で研究を推進していく。

※3部会は学期に2回程度（必要に応じて）もつ。

###### ②家庭学習・自主学習の推進

- ・家庭学習の手引き、自主学習ヒントカードの活用をする。
- ・自主学習ノートの掲示をし、質の向上を図る。
- ・家庭学習の内容について、情報交換をする。
- ・家庭学習の状況調査を定期的に行う。
- ・ノートの使い方を統一する。

###### ③特別支援教育の推進

- ・個別の指導計画を効果的に活用する。
- ・支援の在り方や具体的な支援の方法、工夫についての研究を深める。
- ・校内委員会を定期的に持つ。
- ・講師招聘やSCによる学習会を設定する。

###### ④道徳教育・人権教育の推進

- ・道徳参観日、人権参観日に向けて資料交流を行う。
- ・講師招聘による学習会（道徳・人権）の設定をする。
- ・児童会活動や縦割り班などを通して、仲間づくりに取り組む。

###### ⑤複式教育の推進

- ・四万十市複式教育研究会での学習
- ・講師招聘による学習会

##### (2) 研究を支えるための取り組み

###### ①朝会やチャレンジタイムの充実

- ・チャレンジタイム（月・火・木・金曜 13：40～13：55）

内容 前学年の基礎となる算数プリント→現学年の内容プリント

・ぐんぐんタイム・・・（水曜日）1・2年＝5校時 内容 [算数・国語]

・加力指導・・・（月・火・木 15：50～16：20）

誤答問題、授業の未定着部分の復習など

・発表朝会（水曜 各学級が年間に2回）

学級ごとの発表とし、感想を言い合う。（朗読・暗唱等）

・学習朝会（学級で表現力や読み取る力を高める取り組みを行う。）

火曜日…文章力向上 木曜日…漢字の読み書き 金曜日…読解力向上

## ②基本的な学習規律の徹底

・ベル着（3分前行動）

・学習のルールの確認、徹底（聴くの徹底）

## ③継続した読書指導

・朝読書を設定（ 8：25～8：35 ）

・学校必読書の見直し

・読書ボランティアによる読み聞かせ（年9回）

## ④新聞の活用

## ⑤家庭学習の習慣化と授業のサイクル化

・家庭学習の習慣化と内容の充実

・本読みカードに学習時間を記入

・「家庭学習の手引き」の見直しと活用

・家庭学習と授業のサイクル化

・授業に生かす予習のよびかけ（家庭学習と授業のサイクル化）

・予習を生かした授業実践

・家庭学習での図書の本利用を授業に生かす

・自主学習の奨励

・自主学習ノートの表彰 ノートのコピーを廊下に掲示

## 5. 今年度の成果と課題

（成果）

今年度は、全学年1単元の中で1回以上予習を生かした授業づくりに取り組むことができた。また研究授業の際に事前研で指導案を基にした模擬授業を行い、意見交流をし、その上で授業を行うことで、ゴールにつながるめあてや、板書計画、発問の仕方などを確認しながら、どの部分で予習を生かすのか全体検討を行い日々の実践に生かすことができた。

予習課題を出すことで、ひとり学びの時間短縮につながり、とも学びで考えを深め合うことや適用問題に取り組む時間の確保につながった。また、次時の予告で予習をしてくる児童が増え、スムーズな授業展開を行えるようになってきた。

児童の学習規律も全学年で取り組むことにより、聞く態度やベル着、正しい姿勢等が改善した。

学習朝会を週3回にすることで、漢字の読み書きの定着も向上してきた。

（課題）

予習課題を各担任の判断に任せているので、単元の中のどこで既習事項を生かした予習をさせるのか取り組みの中で効果的だった予習の記録を残していかななくてはならない。予習内容の個人差が、授業内容にも反映するので、予習のスタンダード的なものが必要である。その改善策として、来年度に向けて、どの単元でどう生かすのか計画立てていく。

家庭学習が身につけていない児童も見られるので、家庭への協力の呼びかけや指導を根気強く続けていく。